

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所 Mikke		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 5日	～	令和8年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 15日	～	令和8年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	報告、連絡、相談、連携(生活の背景を捉えた支援)	保護者だけでなく、関係機関ともタイムリーでより密な共有ができるように、訪問後は電話、SNS、e-mailなどを活用し、タイミングが合わない場合を含めて3日以内を目標に、全体に報告を行うことができるよう取り組んでいる 訪問先や事業所だけで解決が難しいときには、関係機関への働きかけを行い解決へ向けた取り組みをしている	今年度も様々な事例が見られた。訪問先と福祉機関だけでは限界を感じ、SSWや子ども家庭支援センター、児童相談所などの機関と連携した支援を行うことで前進したケースがあった。引き続き、社会資源など地域生活にも目を向けながら連携方法を模索していく
2	ライフステージを意識した支援	お子さんの現状ご家族、訪問先担当者の思い、将来を見据えて逆算する支援を実施している クラスの一員としての過ごし方、行事への参加方法等、訪問先担当者やご家族、関係機関と電話やSNSを活用してタイムリーに共有している	将来の目標や自己決定を取り入れた支援を行いながら、18歳以降の生活につながる支援やコミュニケーションを意識した取り組みを行っていく
3	訪問先にサービスの理解をしていただく取り組み	サービス担当者会議の場や、契約スタートとなるときだけでなく、利用中でもサービス内容について必要に応じて説明させていただいている。支援内容やそれに応じた訪問日数や時間についてなど、訪問先の担当者を主としながら訪問先の状況を伺い決定するようにしている	お子さんの成長に合わせて訪問支援員がフェードアウトしていくイメージをもって対応していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の環境の周知	遠方での支援が増えたり、ご家庭の状況により面談を家庭で行うこともあるため、事業所の環境が適切に伝わっていないことが要因と思われる	グーグルマップには掲載しているが、オンラインや写真などで事業所の雰囲気をお伝えできるように工夫していく
2	家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が開催できていない	平日のみの営業体制となっていることに加え、保育所等訪問支援の提供や事務業務が逼迫している状況にあるため	組織体制の強化や新規職員の募集などを通じて、家族支援に人員を割ける体制を整えていく。他事業所からもアドバイスをいただきながら計画していきたい
3	急速なニーズに対して、マンパワーが不足している	支援のニーズに対してマンパワーが不足している状況になっている。急を要される方で、セルフプランの方は他事業所を紹介させていただきようとしている	児童福祉支援経験者の雇用を進め、研修期間を設けることで現場で活躍できるような人材を育成し、スタッフを更に増員できる体制を整えていく